

事業評価書

補助事業名	上富良野演習場関連公共用施設（通信施設：防災行政無線施設整備工事）整備事業						
補助事業者名	中富良野町						
実施場所	中富良野町役場（中富良野町本町9番1号）						
補助事業の成果の目標	<p>本町の防災行政無線施設は平成10年度に設置したところであるが、約16年が経過し、平成25年度には機器の老朽化による故障のため、一定期間使用不能になるなど、緊急的な整備を要する状況にある。</p> <p>このため、防災行政無線施設が安定的に使用できるように整備し、災害時における迅速な情報伝達や災害応急対策等を行える環境を整え、住民の生命・財産の安全確保を図る。</p> <p>（参考指標） 中富良野町まちづくり計画による整備：防災無線更新事業（親局、遠隔局各1局）</p>						
補助事業の内容	防災行政無線施設整備 一式						
補助事業の始期及び終期	平成26年6月～平成27年2月						
事業費及び交付金額		平成26年度					計
		円	円	円	円	円	円
	事業費	33,264,000					33,264,000
	交付金額	31,406,000					31,406,000
補助事業の成果及び評価並びに地域住民への周知の実施状況	<p>老朽化した防災行政無線施設を整備し行政情報の伝達確認を行ったことで、災害時における迅速な情報伝達や災害応急対策等を安定的に行える環境を整え、住民の生命・財産の安全確保を図ることができた。</p> <p>また、町広報誌に掲載し、調整交付金事業で整備したことを広く住民に周知した。今後、防災訓練や講演会等を通じて、更に住民に周知する。</p>						
事業の改善措置及び今後の対応	防災行政無線施設を安定的に使用できる環境を継続させるため、避難情報及び行政情報の伝達確認を行う等、防災訓練や定期点検等を実施し、障害発生の未然防止に努める。						
事業評価に際しての第三者機関の活用の有無	無						

事業評価書

補助事業名	上富良野演習場関連公共用施設（医療施設：院内備品購入）整備事業						
補助事業者名	中富良野町						
実施場所	国民健康保険中富良野町立病院（中富良野町西町3番25号）						
補助事業の成果の目標	<p>国民健康保険中富良野町立病院の「患者用電動ベット」は、背や膝の角度及びベットの高さが電動により寝たままで操作可能なベットで、入院患者及び看護師の負担軽減を図ることができる。現在使用しているベットは平成2年度に購入したものであり、経年による老朽化が進み、上肢・下肢の角度調整の不具合が多く、サイドレールやサイドテーブル等の付属品の破損も多く事故等の恐れもある状況にある。</p> <p>また、「車椅子体重計」については車椅子のまま体重測定が可能で患者及び看護師の負担軽減を図ることができ、高齢の患者が多く使用頻度も多くなると見込まれるものである。</p> <p>これらを整備することにより地域の医療福祉を向上させる。</p>						
補助事業の内容	<p>院内備品 患者用電動ベット外10台 サイドレール20台 サイドテーブル10台 車椅子用体重計1台</p>						
補助事業の始期及び終期	平成26年8月～11月						
事業費及び交付金額		平成26年度					計
		円	円	円	円	円	円
	事業費	3,996,000					3,996,000
	交付金額	3,851,000					3,851,000
補助事業の成果及び評価並びに地域住民への周知の実施状況	<p>「患者用電動ベット」については、入院患者から、「自分の手元で操作でき喜んでいる」という意見や、看護師からは「介助が楽になり負担軽減につながっている」という意見も寄せられている。「車椅子体重計」については、患者及び看護師から、「体重測定する際に負担軽減が図られた」という意見が寄せられ、いずれも地域の医療福祉の向上が図られた。</p> <p>また、院内に交付金によるベット等の購入に関する掲示を行うとともに、各備品等にシールで事業名を表記。さらに、町広報誌に掲載し、広く町民に交付金で導入していることを周知した。</p>						
事業の改善措置及び今後の対応	今後とも医療機器の現況（老朽化や使用困難）や使用者及び医師・看護師等のニーズを踏まえながら事業を実施する。						
事業評価に際しての第三者機関の活用の有無	無						

事業評価書

補助事業名	上富良野演習場関連公共用施設（医療施設：事務機器購入）整備事業						
補助事業者名	中富良野町						
実施場所	国民健康保険中富良野町立病院（中富良野町西町3番25号）						
補助事業の成果の目標	<p>国民健康保険中富良野町立病院の事務機器「薬剤業務支援システム」は、医事での処方入力により自動的に薬袋が発行されるシステムで、用法どおりの印字と薬の個々の大きさや数量によりサイズを認識し薬袋を発行するシステムである。現在使用しているシステムは平成13年度に導入されたもので、耐用年数が過ぎ保守点検期間が終了しているため、故障した際の修理の保証がないため、早急に新システムを導入すべき状況にある。</p> <p>このため、本システムを更新することにより地域の医療福祉を向上させる。</p>						
補助事業の内容	事務機器 薬剤業務支援システム一式						
補助事業の始期及び終期	平成26年10月～11月						
事業費及び交付金額		平成26年度					計
		円	円	円	円	円	円
	事業費	4,060,800					4,060,800
	交付金額	3,780,000					3,780,000
補助事業の成果及び評価並びに地域住民への周知の実施状況	<p>「薬剤業務支援システム」については薬剤師から「より早く正確に薬袋を発行でき、患者の待ち時間の短縮につながっている。」という意見が寄せられ、地域の医療福祉の向上が図られたことが確認された。また、院内に交付金による事務機器購入に関する掲示を行うとともに、シールで事業名を表記。さらに、町広報誌に掲載し、広く町民に交付金で導入していることを周知した。</p>						
事業の改善措置及び今後の対応	今後とも医療機器の現況（老朽化や使用困難）や使用者及び医師・看護師等のニーズを踏まえながら事業を実施する。						
事業評価に際しての第三者機関の活用の有無	無						